

八中3年人権だより

徳島市 八万中学校
3年生 第16号
2024年10月21日
編集・文責 吉成正士

(15号からのつづき)

伝えようとすることに意味がある

■僕の中で、今までで一番思うことが多かった人権学習になりました。今まで発表したことがなく、「八中方式」になってからも僕は発表することなく、3年間の人権学習を終えるものだと思っていました。でも、今回班の友達に発表をすすめられて、一緒にするならという条件付きで初めて発表しました。緊張でうまく言葉が出ず、正しい意味として全員に伝わったわけではなかったですが、発表できてよかったです。終わったあと、いろいろ言われたけど、意見を全員の前で伝えようとすることに意味があると思うので、一成長できたと思っています。

今回、前の日に吉成先生が、『『知る』ことは大事だけど、それだけでいいの？』と言っていたのが、ずっと残っていました。『知る』ことも大事ですが、知識を得るだけじゃ効果がないと思うので、それを発信していたり、行動に移すことが、『知る』ことを最大限意味のあるものにできるんじゃないかなと思います。次で最後の全同人権学習。今までの積み重ねをさらに良いものにしていける会にできたいなと思います。 3組FS

「知る」ことは確かに大切なことだけど、それだけでは意味がない。本当にそう思います。知ったことは悪用もできるわけですから、「知る」だけではダメなんです。では、私たちがしてきたことに意味がなかったかという、そうではありません。私たちがしてきたこととは、様々な人権課題を「知る」と同時に、同級生との違いやその思いを「知る」ということ。それらを通して、自分自身をふりかえり、自分自身を「知る」ことを繰り返し繰り返し、積み重ねてきたのです。単に「知る」だけで、これらをしていないから、悪用につながるのだと思います。これをしていくことが、悪用しないことにつながっていくのだと思います。だから人権学習は必要だし、みんなで語り合う時間は大切だということです。

よってということを伝えたいです。

あと、私はあともう一つ伝えたいのは、人権学習でもちろん知識は必要だけど、それをどう使うか、その知識をいい方に使うのか、悪い方に使うのかを考える力というか、人のことを考えて、どうやっていい方向に向かっていくかを考える力が大切ということを伝えたいなと思います。 1組HM

「正しさ」を学んできている私たちの生活は良くなっているはずですが、では、「正しさ」を学び、積みあげてきた私たちは、何の間違ひもない「正しい」生活になっているかという、そうでもない現実もあります。これはどういうことでしょう。

何事もそうですが、人権学習の学びにも個人差があります。多様性の時代ですから、それはあって当たり前と考えるべきです。であれば、十分な人もいれば、不十分な人もいます。それは、どちらがいい、悪い、という問題ではなく、ごく自然で当たり前のことなのです。だからといって、不十分だから責められるという問題ではなく、互いに足りない部分を補い合い、支え合いながら、協力し合える関係性をつくり維持していくことが大切だということです。そのためにどう行動するかということですよ。授業の最後にはこんな発言がありました。

さっき吉成先生が、他校もいろんな人権学習を受けているということを言ったんですけど、私は新しく出会った人に伝えると同時に、その新しく出会った人からも話を聞いて、その出会った人も私が伝えたことをさらに別の人に伝えられるような、そんな伝え方を探していきたいなと思います。 6組KM

「伝える」ことも、大切なその一つです。あなたに合った、あなたなりの行動があるはずですよ。それを見つけれられるのは、あなただけです。ぜひそのことに努力してほしいなと思います。

友達のことをもっと知りたい

■今回の人権学習では、心に響いた言葉やみんなの考えがたくさんあった。まず川上さんの発表で、「あまり悩まずに、自分の決定を応援する」という言葉があつて、私は心配性で考えすぎてしまうことがよくあるから、自分が決めたことを応援できるようになれば、すごく気持ちが軽くなるだろうなと思った。そして、柳本さんの、「人権学習は人のあたたかさを知れて、人と関わるのが好きになる」という言葉は、とても共感できた。

吉成先生が、「もし人権学習がなかったら」と問いかけていたけど、私が八中での人権学習をしていなかった中1までを思い返すと、人権学習はしていたけど、今みたいに真剣には取り組んでいなかったし、もっと人に無関心だったと思う。この学習を通して、前より人を好きになったし、友達のことをもっと知りたいとも思うことができた。私たちがしてきたものは、人と関わるうえで、傷つけないし、傷つかないための学習、そして、自分との向き合い方を教えてくれた



私が伝えたいのは、私たちの学校がやってきた人権学習は、人権学習で学んだのは、国とか世界とか、そういう規模の重い問題だけじゃなくて、自分たちの悩みと向き合ったり他の人の悩みを聞いて、「あ、これ自分も同じやな」って、学年のみんなと心をつなげられる学習をしてきた

学習なので、燃え尽きる学習にはしたくない。

6組MH

この感想は、次の発言ともつながるように感じました。

私は3年間人権学習する間で、自分の語ることと、人の語っていることを聞いて、人の気持ちを知ることが大切ということ、何回も感じたし、みんなが発表しているのを聞いて、自分も考えることとか、勇気づけられることが多いので、これから新しく出会う人に伝えたいことは、まず相手のことを知ることが大事だよっていうことを伝えたいと思います。また柳本さんが言っていたように、人と関わるのが好きになるっていうので、私はもともと人としゃべるのが好きだけど、人権学習をするようになってから、人のことを知るのが怖くないとか、自分のことを言っても受け容れてもらえるので、人と関わるのがもっと楽しくなりました。

2組KN



長年「みんなで語り合う人権学習」をしてきて思うことがあります。それは、多くの卒業生が、人と関わる仕事に就いているということです。もちろんすべての人がそうなるわけではないでしょう。でも、あくまでも感覚的ですが、そう感じます。それは看護師だったり、介護福祉士だったり、教師だったり、保育士だったり。そんな仕事でなくても、様々な仕事に就き、相手目線で仕事をしているように思います。

多感と言われるこの年頃で、人の意見や考え、腹の底にある思いにふれる経験をしておくことは、その後の人生に大きな影響を与えるのかもしれない。自分の思いを懸命に伝えようとするし、人の思いに耳を傾け、自分のことを深くふりかえるとともに、人のことを信じようとするように思います。そんな下地がベースにあれば、どんな道に進んだとしても、人に興味をもって過ごせるのかもしれない。人権に関心をもつとは、そういうことなのだと思います。

人から人へ、バトンを継ぐ

■今回の全体人権学習では、1年ぶりぐらいに皆の前で発表しました。それまで私は、発表したいと思っても、自分の中でのストッパーが出てしまったり、班の雰囲気合わなくて発表できませんでした。だから、前の人権学習が終わったあと、次の全体学習では発表すると心に決めていたので、発表できてよかったです。

私も皆の意見を聞いて心に残っているのは、田村さんの発表です。私も最近進路のことで食卓を囲みながら両親に相談していると、親と意見が合わなくなってしまうこと

があるので、こういう悩みを抱えているのは自分だけではないと思いました。そして、吉成先生がおっしゃっていた「人と比べるのではなく、自分がどう生きるか」という言葉で、この高校に入ったからとかではなく、この高校でどう生活するのか、何をするのかを考えて進路を決めていきたいと思いました。

今日はとても楽しかったです。人権学習を楽しめば、燃え尽きてしまうものも、燃え尽きないと思いました。今日は人から人へバトンを継ぎ、考えを広げられる日だったと感じました。

3組OH

田村さんは、資料の登場人物である勝子さんと自分を照らし合わせて、自分のふるまいについて考えたことを発言してくれました。

勝子さんはたぶん闘ったんだと私は思います。私は今の進路に不安を持っていて、体験授業とか部活とかを体験してみて、この高校がいいっていうのは決めただけ、家からだいぶ距離があって、お父さんがあまりお勧めしていません。毎日その学校へ自転車とかバスで行くとか、その学校における人こんな人とかおるんぞとか、不安なこととかいっぱい言ってきたりして、私も不安です。そういうとき私はいつも逃げていました。でも勝子さんは愛子さんに、「部落の私が怖い？」みたいな感じで自分の意見を言って闘っていたので、たぶんこれから先もいろんな人にどんなことを言われても、自分の考えを持って闘っていったんじゃないかなと思います。

私たちがしている教育は間違っていないか、と考えることがよくあります。

私はすごく自分勝手に嫌らしい人間でした。今もそうかもしれません。私が学生のころの教育は、詰込み型の教育で、その意味を深く考えることなく、とにかくテストで〇がもらえるような勉強をしていました。だから、点が取ればいい、成績が上がればいい、受験に合格すればいい、と思っていました。その結果として私は、受験に合格すると、何もしなくなりました。周りの他の友人は変わらず勉強していたと思います。が、私は本当に何もしなくなったのです。

でも、それはやはり間違いだったと思います。どこが間違っていたかというところ、人と比べていけると思って油断していたこと。合格すればいい、そのときがよければいいと思っていたこと。ずいぶん嫌らしい、自分勝手な人間だったと思います。でも、どこに入っても、そこで何も為さないと意味はなくなってしまいます。どこを出ても、その高校のブランド名に頼って何もしてなければ、薄っぺらいものになってしまいます。まだまだその後人生は続いていくわけですから、その後につながる「今」をどう過ごすかだと思っております。そのことを伝えたくて、私のしてきた過ちを辿ってほしくなくて、「どこに入ったかではなく、どこを出たかでもなく、人と比べるのでもない」。「自分がどう生きるか」だと話をさせてもらいました。

どこに入ってもいいんです。出たところがどこだっていいんです。他人と比べていたら、嫌らしい優越感や情けない劣等感で、どんどん自分が惨めになっていくことがあります。そんな生き方ではなく、「自分は自分」と、自分の人生に自信と誇りをもって、堂々と生きていってほしいと思います。自分の人生の主役は、自分なのでから。

(17号につづく)